

当院で医師クラーク 53 名を一括養成

近年、医師の業務については、病院に勤務する若年・中堅層の医師を中心に極めて厳しい勤務環境に置かれており、その要因の一つに、医師でなくても対応可能な業務までも医師が行っている現状があるとの指摘があります。また、看護師等の医療関係職についても、同様な指摘がなされています。

本院では、病院長のリーダーシップのもと、「働きやすい病院に向けて」「専門職が専門職に専念できる環境へ」をスローガンに医師、看護師等の医療関係職員の各種負担軽減計画を策定し実施してきました。

その取組の一つとして、平成22年度から実施している医師事務作業補助者(以下「医師クラーク」という。)の養成計画があります。

現在、本院で雇用している病棟・外来クラーク及び各診療科に配置している事務補佐員 48 名を対象に(株)ニチイ学館を講師としたメディカルドクターズクラーク講座の受講と本院独自の院内研修を実施しました。

さらに、平成23年4月には、これら受講者と既に医師クラーク資格を取得している者を対象に、研修医オリエンテーションの聴講及びクリニカルスキルアップセンターでの院内 BLS 研修を実施し、修了者 53 名を「医師事務作業補助者養成研修修了者」として認定し、全診療科に配置したうえで電子カルテ上の権限の付与等を行い、補助業務に従事させることにしました。

すでに特別に多忙な診療科に専任の医師クラークを試行的に配置し、退院サマリーの仮作成支援を行ったところ顕著な医師の負担軽減効果が得られています。今後は、退院サマリーのみならず診断書の仮作成等まで補助業務を拡大させ、さらなる負担軽減に貢献して貰う予定です。